



— 鎮守の森のプロジェクト —

2018 年次報告書

[平成29年12月 - 平成30年11月]

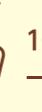


公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト 2018年次報告書 / 平成30年12月発行



皆さまのご寄付で森をつくっています。

¥1000 =



1000円で1本のポット苗を植えることができます。
一口1000円からのご支援をよろしくお願い申し上げます。

① 口座振込みで寄付する

寄付金受領書発行のため、銀行振込にてご寄付の方は、
メールかお電話で住所、お名前、電話番号をお知らせください。

口座名: 公益財団法人鎮守の森のプロジェクト

- 三井住友銀行／本店営業部【普通】2502292
- 三菱東京UFJ銀行／新丸の内支店【普通】3150627
- みずほ銀行／八重洲口支店【普通】2440176
- 郵便局／00120-4-548300 *青色の払込票をご使用ください。

② クレジットカードで寄付する

鎮守の森のプロジェクト
公式ホームページからお申込みください。
www.morinoproject.com/donation

ご利用可能なクレジットカード



こんな応援の方法もあります。

あなたの大切な「ご遺産」や「香典のお返し」を、社会貢献に活かしたいと思っておられる方、
次世代のいのちと暮らしを守る森づくりに活かしませんか？

① 遺言による寄付(遺贈)

「遺贈」とは、遺言書を作成することによりご自身の財産を誰に相続させるかを指定することをいいます。遺言書への記載により、現金・預貯金を「公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト」へご寄付(遺贈)いただくと、ご寄付いただいた財産は相続税の課税対象となりません。

② 相続財産からのご寄付

相続または遺贈により現金・預貯金を取得された方が、相続税の申告期限内(相続開始日の翌日から10ヶ月以内)に、その現金・預貯金を「公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト」へご寄付いただくと、ご寄付いただいた財産は相続税の課税対象となりません。

③ 香典からの寄付

お香典のお返しに代え、社会貢献のための寄付をしたいとお考えの場合は、いのちを守る森づくりに活用することができます。お香典返しに代えた寄付のお礼状は、当財団にてご用意しております。

④ 信託財産による寄付

ご自身の資金を信託銀行等へ預け入れて運用を委託し、その資金の中から公益法人等へ定期的に寄付をする制度です。一度契約をすると確実に継続して寄付が実行されます。

平素より当財団に対する格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本年十月にICPP(気候変動に関する

政府間パネル)が特別報告を出しました。このまま温室効果ガスが増え続けると平均気温が上昇し、大雨や大干ばつなどの異常気象が世界各地で発生することが予想されています。わが国でも想定外の地震、記録的な大雨、いのちの危険がありますなどと言った言葉を聞くようになりました。

私たちが推進している「災害からいのちを守る森」は副理事長の宮脇昭博士が提唱している「潜在自然植生理論」に基づく森であり、日本全国の植生を調査して得た知見をもとに「鎮守の森」をモデルにした「ふるさとの木によるふるさとの森」です。

自然災害が頻発する我が国で、私たちがつくる森は関東大震災では、森に囲われた岩崎別邸に逃げ込んだ人々の命を救い、阪神淡路大震災では広葉樹の樹林帯が延焼

を防ぎ、東日本大震災でも引き潮から多くのものを受け止めました。地域環境に順応したふるさとの緑は非常に強靭なものなのです。
今、東北のみならず全国から「わが町にも災害からいのちを守る森をつくりたい」との声が寄せられ高知県や静岡県、三重県、さらには首都圏にも拡大しています。災害から命を守り、地域の生態系を育む森を子供たちに引き継いでいく、それは次世代に残す宝であると同時に、今を生きる私たちの責務であると考えています。

私たちは「災害からいのちを守る森」づくりを全国に展開して参ります。引き続き皆様のご支援・ご協力を願い申し上げます。

平成三十年十一月

公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト

理事長 細川護熙

副理事長 宮脇昭メッセージ 森づくりはあなたが主役

誰が木を植えるのか

これまで木を植えて森をつくることなどは、多くの人にとっては他人事で、林業家か庭園をつくる人だけの仕事と思われてきました。しかし、私たちの周りからふるさとの森、遺伝子を守る本物の森が消えている現在、他人事としていてよいのでしょうか。森の消滅のため、日本各地では地震、火事、台風、洪水、吹雪などによって大きな被害がもたらされています。

森を単に木材生産や美化だけの対象として考える時代は終わりました。自分や愛する人、さらには隣人の生命を守るために、また共存者として多くの動物、植物が地球上で間違いくなく未来に向かって生き延びていくために、いのちの木を植え、森をつくっていくことがあります。やく理解されるようになつてきました。では、いったい誰が木を植えるのでしょうか。

私たちが、明日を生きる人のために
今こそ、明日を生きるために何をすべきかを、みなさんとともに木を植えながら考えるとます。一人、二人が木を植えても大したことはないと思うかもしれません。しかし、「人が10～20本植えるとして、日本の1億2千万人が、地球の65億人が木を植えたとしたら、いったいどれだけ多くの森ができるのでしょうか。その森が、どれだけ防災・環境保全林、水源涵養林としての機能を果たし、どれだけ多くの心安らぐ場所を与えて、どれだけ温暖化の元凶といわれるカーボンの吸収・固定に役立つでしょうか。森をつくることで、今を生きる人、明日を生きる人のいのちをどれだけ守ることができるか、考えてほしいのです。

森は、幅1mからでもつくることができます。いのちの木を、大地に手をつけて植える。この、時には厳しいけれども心に響く静かな感動、喜び、素晴らしさを、あなたのため、あなたの愛する人のため、人類の今と明日、未来のために、さらに広げていきたいと願っています。

副理事長 宮脇昭
公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト

このメッセージは、NHK出版「苗木3000万本いのちの森を生む」(著・宮脇昭)、河出書房新社「森の長城が日本を救う」(著・宮脇昭)より引用しています。

南海トラフ地震に備えた 防潮林づくり マツ林から広葉樹林へ



東海地方でも、津波からいのちを守る森づくりが始まりました。

三重県明和町大淀海岸では、南海トラフ地震など津波を伴う大規模地震発生で、
2~10mの浸水が予測されている地域です。また、マツ林(海岸保全林)が整備されているこの海岸線は、
マツクイムシによる枯れ被害に悩まされており、疎林化が進んでいました。
そこで明和町では、東日本大震災の教訓を活かす当プロジェクトの森づくりを取り入れ、
津波の防災・減災対策とマツ枯れ対策にもなる、広葉樹を中心とした森づくりの取組みをはじめました。

既存のマツ林を活かした、森の防潮堤づくり

疎林スポット(黄色い部分)に盛土

マツクイムシ被害により疎林となった
スポットに、高さ1.5mほどの盛土をする。
水はけを良くし、根腐れを防ぐ。また、
地中深く張った木の根は津波に倒れることなく、
津波の威力を弱め、水位も低下させる。

常緑広葉樹を混植・密植

その土地本来の常緑広葉樹など十数種類を混合し、
1平米あたり3本の密度を基本に植える。

次世代に嬉しい管理コスト

植樹から約3年間は草抜きメンテナンスをする。
その後は天然更新する森となり、
メンテナンスを必要としない。

次世代を津波から守る

広葉樹を中心とした森が津波の威力を弱め、
漂流物も食い止める。また、
マツクイムシ被害にも強い。



今年の植樹本数33,841本 参加人数5,320人

これまでに、481,076本の木を55,232人の手で植えました。

【植樹祭】

2018年6月23日(土) 宮城県岩沼市
第6回千年希望の丘植樹祭

植樹本数 5,000本 参加人数 550人

2018年7月1日(日) 三重県明和町
町制施行60周年事業「未来のいのちを守る植樹祭」

植樹本数 1,720本 参加人数 400人

2018年8月25日(土) 岩手県山田町
いのちを守る森づくり植樹祭

植樹本数 3,000本 参加人数 330人

2018年11月4日(日) 福島県南相馬市
第1回ふくしま植樹祭～ABMORI～&

第6回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭～いのちを守る 防災林づくり～
植樹本数 18,000本 参加人数 3,000人
(広葉樹)

岩手県で初めての植樹地となる山田町は、太平洋に面したアーリアス式海岸の美しい町でしたが、東日本大震災の津波により居住地を高台に移転しました。沿岸部に設けられた津波防災緑地に、今後3年計画でいのちを守る森をつくります。植樹祭には細川理事長も参加し、総勢330人の参加者で25種類3000本の苗木を植えました。参加者の中には夜行バスで8時間かけて来てくれた大学生の姿もありました。また地元の皆様からもお昼の差し入れなどもあり、多くの皆さまのご協力をいただきました。



→細川理事長と地元婦人会の皆さん。あら汁・イカ焼きなどが、婦人会により振舞されました。



【育樹(草抜き)】

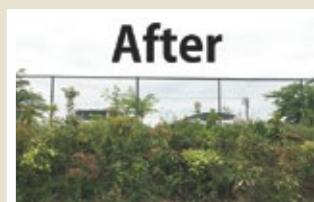
2018年5月12日(土) 福島県南相馬市原町区萱浜字長沼地内
参加人数 53人

2018年5月13日(日) 福島県相馬市光陽サッカー場
参加人数 35人

2018年6月23日(土) 宮城県岩沼市長谷釜
参加人数 550人(午前/植樹、午後/草抜き)

2018年9月1日(土) 宮城県岩沼市二野倉
参加人数 350人

育樹(草抜き)は森づくりにはかかせない大切な作業です。木を植える植樹祭よりも参加人数が少なくなってしまうことが毎年の課題であります。今年は昨よりも多くの方が集まってくれました。来年は岩沼市で10万本分の植栽地の育樹が待っています。多くの方のご参加をお待ちしています。



草抜き前と後の植栽地

【どんぐり採種】採種数 78,768粒 参加人数 40人

2018年11月10日(土) 宮城県仙台市近郊

今年のどんぐりは、なりが少なく成長不良な小粒が目立ちました。今夏の酷暑の影響だと思われます。ボランティアの皆さんには限られた樹種から丁寧に採種していただきました。採種した種の一部は、12月に行われた「ポット苗育苗講習会」の実技で育苗箱へ播種されました。



【岩沼市成長量調査】

2018年5月28日(日) 宮城県岩沼市相野釜公園内

2013年5月に開催した、第1回岩沼市相野釜の植樹際から丸5年が経過しました。財団では5年を機に、成長量調査を行いました。風などの影響を受けにくい丘、盛土の陸側では、大きいもので樹高3.8m、根元直径60mm、胸高直径37mm(スダジイ)になっており、その他の樹種も平均的に2mを超えていました。対して、風を常に受ける海側の成長はゆっくりで、3m近くのものもありましたが、平均的に2m以下のものが目立ちました。いずれも、成長は順調でした。



未来を見据えた森づくり
本多靜六に学ぶ

明治神宮の森づくりを紹介



A black and white portrait of Matsuo Seisaku, an elderly man with a high forehead and receding hairline, wearing a dark suit and tie. The portrait is set within an oval frame.

明治神宮の森はおよそ百年前の大正四年（一九一五年）、世紀を超えたその先の森の姿を想定し人工的につくられた。多様性（種類）、多層性（高さの違い）に重きを置き、人の手をほとんどかけず、自然の力によつて世代交代を繰り返し、永続する自然の森を目指して、本多静六が中心となつて設計したものです。先人たちが知恵を絞つてつくったこの森は、現在では人工の森の最高傑作のひとつとされ、人工林であるにもかかわらずその姿と規模においては鎮守の森の代表格と言えましょう。

写真一、明治神宮の森100年間の景観変化。1920年の造営当時(右)と現在(左)の大島居(二の鳥居)付近の様子。出典:明治神宮

然淘汰は予想よりもは
やく、現在は、未来予想
図によるところの二五〇
年後あたりの構成に
なっています。

本多静六も提唱していた
森の防潮堤の重要性

昭和八年
三陸沖地震による津波被害

東北の三陸地方は記録による、貞觀十一年（八六九年）～平成二十三年（二〇一一年）の間に九回の地震による津波被害を受けています（表）。昭和八年（一九三三年）の三陸沖地震の際、津波被害地域の調査が行なわれ、翌年には農林省山林局から「三陸地方防潮林造成調査報告書」が出版されました。そこには三陸地方各地における津波の被害状

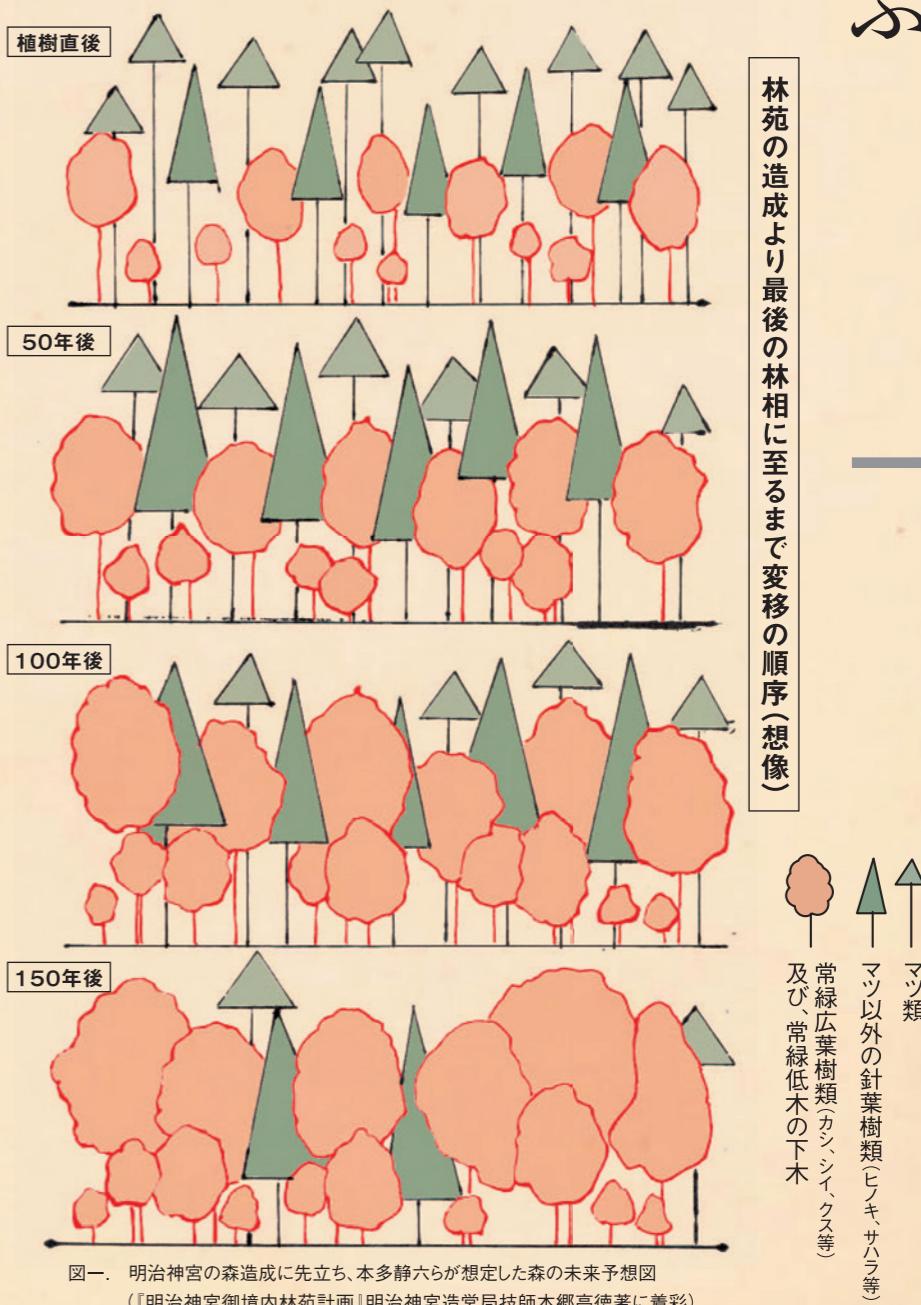
クト副理事長)は、「明治神宮鎮座五〇年事業」の環として、明治神宮の森の植生調査を依頼され、その調査結果として、「明治神宮宮域林の植物社会学的研究」を一九八〇年に発表しました。そこには、「本来の常緑広葉樹林に近づいていいる」、「林床や林縁の適切な管理のもとに現状の保育を維持すれば、大都市の中に人工的に形成された神域林、郷土林として最もバランスのとれた、安定した常緑広葉樹林に発達することが期待される」と記され、明治神宮の森を調査の結果から高く評価しています。

土地本末の森は、人間の管理なしで維持され、地震や大火災などから人々を守る森でもあります。

造営当時の代々木周辺では工場が建ち並びはじめていました。すでに公害も進んでいて、大木や老木は次々と枯れ、代々木の土地は荒地となっていました。本多静六らは、気候条件や土地に応じた樹種と公害問題への対策も検討

し、「乾燥した代々木の土地、さらに煙害に対してもスギ、ヒノキ、マツなどの針葉樹は永遠安全に維持することは困難」と考え、主木をシイ、カシ、クスなどの常緑広葉樹と定めました。それは、自然に落下する種子によって再生し、

人為に頼らなくとも永く維持・再生することができ、煙害にも強く神社の境内に森厳な神宮林を形成するものとして、森林造成計画に選ばれたのです。



図一 明治神宮の森造成に先立ち、本多静六らが想定した森の未来予想図
 (『明治神宮御境内林苑計画』明治神宮造営局技師本郷高徳著に着彩)

発生年(西暦)	昭和8年に至る 経過年数	震源	規模
貞觀11年(869年)	1064 年	三陸沖	大ノ大
慶長16年(1611年)	322 年	三陸沖	大ノ大
元和2年(1616年)	317 年	三陸沖	小
延宝5年(1677年)	256 年	三陸沖	中
元禄2年(1689年)	244 年	三陸沖	小
明治29年(1896年)	37 年	三陸沖	大(気象庁推定M8.2)
昭和8年(1933年)※1	0 年	三陸沖	大ノ小(気象庁推定M8.1)
平成23年(2011年)※2	78 年後	三陸沖	M9(東日本大震災)

※1陸前高田の松原「高田の松原」は流出せず。※2「高田の松原」は1本を残して全て流出。

況が事細かく図表や写真を添えて記載され、実際に役立つた防潮林の効果などがまとめられています。また、本多

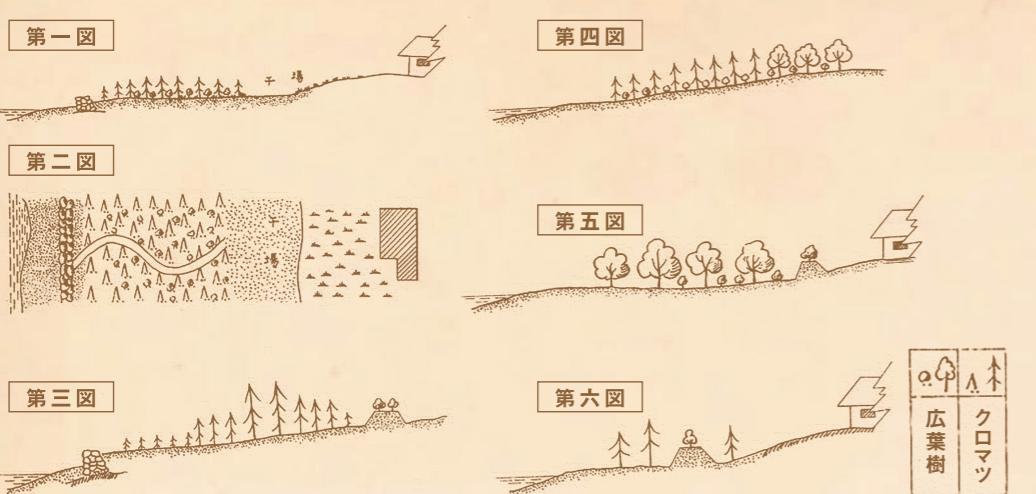
ここでは、その『三陸地方防潮林造成調査報告書』から一部を抜粋して現代語に訳したものをご紹介したいと思います（茶色文字部分）。

防潮林の効果

津波は海岸では水平に大きな水壁が押し寄せてくるよう見え、波高以下の海深部では碎波となり奔流となつて陸に打ちあがり、想定外に高い位置まで打ち寄せる。加害の影響は浸水または速度(エネルギー)によるもので、特に後者の被害が大きい。衝撃の大きさは、碎波地点から遠ざかるに従つて減少し、また、曲面(円弧形)は平面に比べて小さく、傾斜面は垂直面に比べて小さくなる。

防潮林は彈性に富み、幹枝は津波に対抗するのに有利な円形で、その水平速度を減殺し、樹林帯の幅によつては、単に浸水程度になるか、または林の中で波力を全く失い波は引いていくことになる。その上、これらの造成経費は他の施設に比べて明らかにコストが安価になるだけではなく、普段は防潮・防風作用により農作物を保護し、風致林・魚付林として、あるいは用材、薪炭等を供給するなど広く人々の生活に役立つ。

次に、山林局および青森営林局で実査した多くの記録



メートル以降)にケヤキ、ネムノキ、ポプラ、アカシ
アを混植し、下木としてマサキ、ツバキ、イボタなど
を植える。道路はS字に設けるべきである(第
二図)。

ため、森林のみを材料に目的を達したい。そのためには林帯幅は約五十四～九メートルを必要とする。波打際に小堤を築き土砂が崩れるのを防ぎ、後方はマツの苗大小を数列植栽し、その後ろに高さ一メートル以下の堤防を築きその上にマサキを二列植える（第三図）。

④砂地に土が多く混ざり肥沃な場合には、クロマツの林帯幅を約三十六～五十四メートルとし、その後ろにケヤキ、ナラ、カシワ等の広葉樹を植え、マサキ、イボタなどの下木も植える（第四図）。

い。後方に人家がある場合は、植栽区の最後列に小規模な堤防をつくり、その上にマサキの垣根をつくる(第五図)。

⑥確保できる土地が狭い場合には、人家を高台移転し、堤防を築き前後にマツを植栽する(第六図)。

昭和八年の三陸沖地震では陸前高田の「高田松原」はほとんど流されず、林内の建物を破壊から守るなど、マツを主体とする防潮林が津波の勢いを軽減する効果を發揮しましたことがわかります。そのため、本多静六の論文内でも防潮林として植える樹種はマツが主体とされています。

平成二十三年

一方、七十八年後に起きた東日本大震災では、「高田松原」は「奇跡の一本松」として報道され、七万本の松のほ

A black and white photograph of a large, two-story house, likely a residence or institutional building. The house features a prominent front porch supported by multiple columns. The upper story has several windows with dark shutters. The lower story appears to have a balcony or a series of windows along the front edge. The house is set behind a dense wall of trees and shrubs, which obscures the lower portion of the building. The sky above is overcast and hazy.

写真二、全壊した浩養館(右)と破壊を免れた企業の福利厚生施設(左) (ともに『三陸地方防潮林造成調査報告書』より)

方潮木造方法について

本多静六は、防潮林造成の目的には、一度高台に移動した人々が、再び低地で生活できるようにする場合と、早急に効果的な防潮林をつくる場合とがあると述べています。その造成にあたり、確保できる土地の大小や防潮の効果を得るまでの時間を想定して造成案を論じています。また、造成における注意事項として、下草刈りの禁止や低木・下草はその地方に野生・自生する植物を用いることなどをあげています。

次に同報告書掲載の「防潮林造成二就テ」より要約をご紹介します。各段落又末の図番号は同論文の付図の番号を示します。

① 土地と防潮林完成までの時間を十分にとれる場合。海岸前線の不安定な場所は避け、草の生える所より後方にクロマツを造林する。海岸近くになる場合は護岸を施し、その後ろに防潮林、その後方に人家を作る(第一図)。

② 林帯幅が十分に確保できる場合(約百八十

この大震災直後に行われた宮脇昭による被災地の植生調査では、土地本来の樹種である常緑広葉樹が大津波に耐えていたことがわかりました。例えば、宮城県南三陸町や岩手県大槌町などの鎮守の森（写真三）はしっかりと残り、急斜面に生えている土地本来の樹種であるタブノキ、ヤブツバキ、マサキなども、斜面の土砂が津波に洗われて根が露出していますが、倒れずに残っていました。宮脇昭は、過去からの調査も踏まえ、マツと常緑広葉樹とで造る森の防潮堤を提唱して

岩手県山田町の植樹について

当財団では、今年八月に岩手県山田町の防災緑地において植樹祭を開催しました。この地も当然、昭和八年の三陸沖地震では甚大な被害があつた場所です

ボランティアに参加してみて

in 岩手県山田町植樹祭

人が手を加えずとも世代交代していく防潮林になってほしい

今回初めて「鎮守の森のプロジェクト」に参加しました。私は大学で専攻しているのが土木関係なので、一度は東北の被災地を訪れて、どのような復興がなされているか見たいという思いがあったからです。プロジェクトの方の話を聞いてみると、鎮守の森は防災の目的もあるが減災の目的も兼ねていると聞きました。今まで私は復興後の対策と聞くと、より高い防災対策のことをイメージしていました。しかし、もし災害が起きてしまった後の被害を減らすことを考えると、減災も防災と同じように対策して行かなければならぬと思いました。また、鎮守の森のプロジェクトの植樹の仕方が明治神宮の森を作るのに携わっていた本多静六さんの方法を引き継いでいると聞きました。私は大学で明治神宮の森についての講義を受けたことがあります。なので植樹した木たちも明治神宮が目指しているのと同様に今後人が手を加えずとも自然に木々たちの世代交代が行われて長い間の防潮林となればいいと思いました。



法政大学
デザイン工学部 都市環境デザイン工学科
久保田匡勇さん

過去に思いを馳せ、 未来を展望したい

今回の植樹作業が私にとって初めての「防災」の取り組みでした。私の出身は広島で4年前に大きな土砂災害がありました。今年の7月末、全国的な大雨で各地が被害を受けていました。広島も同様、豪雨の爪痕が残されており、4年前の教訓を活かしきれていないのではないかと思いました。この時初めて「防災」の必要性・重要性を私は本当の意味で感じました。しかし実際に防災に向けてどうすることも出来ておらず、歯がゆい思いをしました。これを実際に行動に移すことが出来たのが今回の鎮守の森のプロジェクトでした。津波に備えて、これからずっと生きていく森をつくる。植樹祭を通して若い世代も将来を考える機会をもつことができました。同じことを繰り返さないために、過去に思いを馳せ、未来を展望したいです。



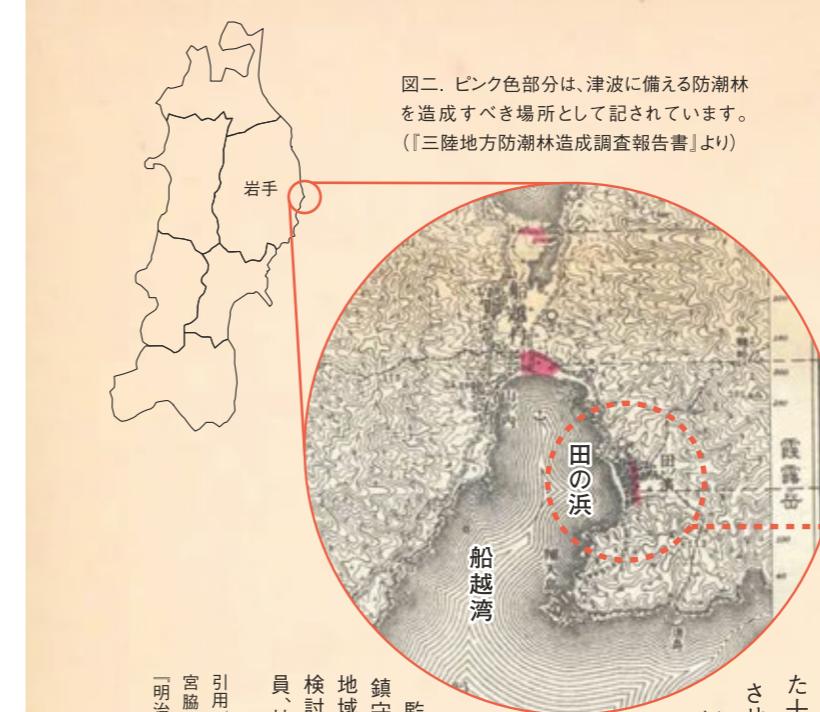
上智大学
外国語学部 英語学科
植田愛佳さん

植物を学ぶ者として、宮脇方式の植樹と関わっていきたい

私はぜひ一度「宮脇方式植樹を体験してみたい!」と思い、今年の6月に宮城県岩沼市と、8月に岩手県山田町で行われた植樹祭に参加しました。宮脇方式植樹は、植樹前にその地域の鎮守の森などを調べ、周辺の森林がどんな種類の樹木で構成されているのかを調査します。そして、植樹する地域に合わせて樹木の種類や各樹種を混植する割合を変えます。このように植樹を行うことで、より自然に近い形の森で、かつ防災機能の高い森が出来上がるよう工夫がされているそうです。今年植樹した木々が20年、30年後に大きく成長し、種を付けるようになったときに自力で森が世代交代をしてくれるようになれば、未永く地域の方々に愛される防災林になると思いました。これからもこの活動に関わり、森になっていく過程を見守っていきたいと思います。

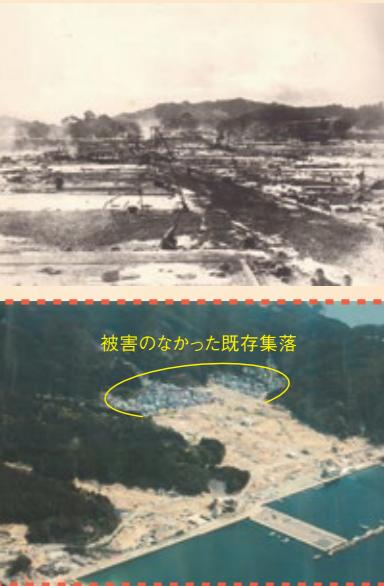


東京農業大学
地域環境科学部 森林総合科学科
武井理臣さん



図二、ピンク色部分は、津波に備える防潮林を造成すべき場所として記されています。
(『三陸地方防潮林造成調査報告書』より)

写真四、昭和8年の三陸大津波に被災した直後の山田町の様子。



東日本大震災の大津波による山田町田の浜地区の被害状況。多くの建物が流出。
2011年6月8日撮影

(写真四)。また、「三陸地方防潮林造成調査報告書」において、津波に備える防潮林を造成すべき地域として記されています(図二)。当財団では、昭和の津波被害から七十八年の時を経て、防潮林の必要があるとされてきたこの山田町田の浜に、地元の子どもからお年寄りまでの皆さんと共に植樹することができました(写真五)。

日本は自然豊かなうつくしい国です。同時に、大地震・大火事・大津波・台風・洪水など、自然災害も多く起ります。本多静六や宮脇昭らにより受け継がれてきた鎮守の森づくりの知見と、植生学・植物生態学をふまえ、あらゆる自然災害に耐える森をつくることが重要です。鎮守の森のプロジェクトで行っている植樹は、宮脇昭が長年の植生調査によって確立した、その土地に適した十数種類の木を密植・混植し、苗木をお互いに競争させながら森をつくっていくというものです。この方式により、在来の多様な樹種によって構成される豊かな森を、自然にまかせるよりも短い期間でつくることができます。

相次ぐ震災に見舞われている今こそ、震災の教訓として「災害からいのちを守る森」を皆さんと共に未来に残していきたいと思います。

監修 鈴木伸一／東京農業大学地域環境科学部教授。鎮守の森のプロジェクト技術部会長。専門は、植生生態学、地域環境保全学。環境省自然環境保全基礎調査植生図凡例検討委員、経産省環境審査会顧問、群馬県尾瀬保護専門委員、神奈川県文化財保護審議会委員。

引用／農林省山林局「三陸地方防潮林造成調査報告書」一九三四四年
宮脇昭・奥田重俊・井上香世子「明治神宮域林の植物社会学的研究」
「明治神宮境内総合調査報告書」二六九・三三三、明治神宮社務所、一九八〇年



写真五、山田町田の浜で行われた植樹祭の様子(2018年8月25日)



株式会社三越伊勢丹ホールディングス
総務部 総務・法務ディビジョン
マネージャー 石神彩子さん

当社では2013年より「鎮守の森のプロジェクト」の植樹活動に参画しております。例年、当社会長のほか、全スタイル(従業員)から選ばれた優秀スタイル「エバーグリーン」のメンバーと共に植樹を行っています。今年は10月に雲一つない快晴のもと、震災のあった地に思いを巡らせながら、約60名の仲間と共に宮城県岩沼市千年希望の丘に720本の苗木を植えました。「自分が植えた木の成長をこれからも見届けていきたい」など参加者の思いもひとしおでした。

また当社では被災地支援活動の一つとして、震災により塩害などの被害を受けた宮城県内の杉の木を使用した「どんぐりバッヂチャリティ」も実施し、利益金を全額「鎮守の森のプロジェクト」に寄付し“お客様の思いをつなぐ”活動をしております。被災者の気持ちに寄り添いながら、悲劇を風化させぬよう一過性ではなく継続的な支援を行うとともに、被災地における活動を全国に発信し続けることが我々の使命と思っております。



サムソナイト・ジャパン株式会社
株式会社トゥミ ジャパン 総務人事部
齊藤美也子さん 菊地美里さん

弊社では被災地の復興支援および長期的な環境保全に僅かでも貢献したいという思いから、千年希望の丘での植樹活動をさせて頂くこととなりました。いまなお大災害の爪痕が残る現地の風景に言葉をなくし、被災地の皆様の痛みにあらためて心を寄せながら行った植樹作業では、未来へ向けて行動を起こすことの重要性を体で感じ学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

2018年は第1回目として43名が参加し430本の苗を植えました。木々が伸び成長して森が広がっていくように、私共の社内でもこの経験を語り継いで周知を広げ、次回以降につなげて参りたいと思っております。今後も継続的にこの取り組みを続け、微力ながら被災地復興のお役に立てればと考えております。



丸紅建材リース株式会社
総務人事部人事課
大村三輪さん

弊社は創立50周年を迎えるにあたって記念事業を検討していた際、「鎮守の森のプロジェクト」の活動を知り、参加することと致しました。

『千年希望の丘』のある宮城県にも弊社の支店、工場、関係会社があり、その工場も東日本大震災で被災しましたが数ヶ月で稼働できるまでになりましたので、自社の鋼材を通して復興に携わってまいりました。今回、企業活動とは異なる植樹を通して地域・復興支援活動に参加できるきっかけをいただきましたこと、ありがとうございます。

植樹当日はスタッフの皆様より設立の経緯から現状、作業の説明をしていただき、苗木植え、藁敷きなど慣れない作業でしたが、普段建設・工事現場で活躍している社員のおかげで順調に進みました。今後も豊かな森になる成長を見守っていき、活動を通して復興支援の一助となることができましたら幸いです。



ボランティアに参加した企業・団体・学校

多くの人手を必要とする植樹や育樹に、今年もたくさんのボランティアの皆さまが全国から集まってくれました。酷暑となった今年は、厳しい暑さの中での作業が多くありました。皆さまのお力で、災害からいのちを守る森がひろがっています。



皆勤賞

東日本遊技機商業協同組合



皆勤賞

AIG損害保険株式会社



全国遊技機商業協同組合連合会(中部遊技機商業協同組合／関西遊技機商業協同組合／中国遊技機商業協同組合／東北遊技機商業協同組合)／上智大学ソフィア会／三井住友信託銀行 仙台支店／一般社団法人群馬県トラック協会 青年部渋川支部／三和化学研究所労働組合北日本支部／株式会社ナカノフードー建設東北友愛会南東北分会／三菱自動車工業株式会社／JBCCホールディングス株式会社／株式会社トゥミ ジャパン／丸紅建材リース株式会社／宮城県柴田農林高等学校川崎校／宮城県川崎第二小学校／サムソナイト・ジャパン株式会社／伊藤忠テクノソリューションズ株式会社／茨城県学校生活協同組合／株式会社三越伊勢丹ホールディングス／株式会社エミネット／工藤建設株式会社／VFジャパン株式会社(ティンバーランド)／株式会社タケイ／アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社／大京グループ／東芝エレベーター株式会社／宗教法人生長の家／イオンモール同友店会／株式会社カツヨシ商事／日本貨物鉄道株式会社労働組合／田辺三菱製薬株式会社／埼玉県立所沢西高等学校／株式会社ADEKA労働組合／PUR Project／We Work Japan／横浜ゴム株式会社／他(順不同・敬称略)

多大なご支援をいただいている企業・団体・個人の方々

(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

AIG AIG損保 AIG損害保険株式会社	TOKYO FM 全国FM放送協議会 株式会社エフエム東京	Aflac アフラック生命保険株式会社
FICELLE inc. 有限会社フィセル	ISETAN MITSUKOSHI HOLDINGS 株式会社三越伊勢丹ホールディングス	APPLIED MATERIALS アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社
FANCL 正直品質。 株式会社ファンケル	AEON Environmental Foundation 公益財団法人 イオングループ環境財団	MICRO-TECHNICA 株式会社マイクロ・テクニカ

※順不同・敬称略
株式会社フェリシモ フェリシモ基金／内田 力／山縣直子／株式会社ニック／ラッキーバンク・インベストメント株式会社／

JBCCホールディングス株式会社／株式会社デファクトスタンダード／三井住友海上あいおい生命保険株式会社／

株式会社エミネット／ソーシャルファンドの会／山本康文／一般社団法人全国美術商連合会／河合伸一／

MFSインベストメント・マネジメント株式会社／株式会社エムアイカード／東京ロータリークラブ 会長 森田富治郎／高山知子／

高山美紀／阪急電鉄株式会社／扶和産業株式会社／前田美保子／GPSSホールディングス株式会社(株式会社地熱開発)

／コスメカンパニー株式会社／増田明雄／伊藤忠テクノソリューションズ株式会社／サムソナイト・ジャパン株式会社

株式会社トウミ ジャパン／クリスタ長堀会／株式会社ティーレックス／小澤佳子／ヨシハマヒデノブ／中村眞一

募金活動をしてくれている学校
他、多数 ※順不同・敬称略

長野市立川中島中学校生徒会環境委員会／横浜市立下永谷小学校／滋賀県立瀬田工業高等学校ボランティア部／栃木県立足利高等学校インタークトクラブ／富山市立太田小学校／山内町立山内中学校／洋野町立種市小学校／沼津市立愛鷹小学校6年2組／藤嶺学園藤沢中学校高等学校文化祭実行委員(順不同・敬称略)

決算概要

[収入の部]

科 目	金 額	備 考
寄付金収入	106,349	4,402件
助成金収入	9,000	イオン環境財団 フェリシモ基金
雑収入	650	行事参加協力費、利息等
前年度繰越金	290,144	平成28年度より
収入合計(A)	406,143	

(単位:千円)

[支出の部]

(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

科 目	金 額	備 考
事業費	73,319	
①森の防潮堤創造事業費	68,632	植樹祭他
②ポット苗育苗事業費	2,079	どんぐり採種・育苗講習会他
③情報提供事業費	2,608	広報・宣伝費
管理費	1,999	事務経費他
支出合計(B)	75,318	
次年度繰越金(A-B)	330,825	

(単位:千円)

こんな応援をしていただきました

鎮守の森のプロジェクトでは、それぞれの法人さまの業務特性を活かして応援していただいています。今年は、周年記念行事やイベント会場のスペースを活かしてご支援をいただきました。



アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社

米国に本社がある世界最大の半導体・ディスプレイ製造装置メーカー アプライド マテリアルズの日本法人。2017年には米国本社が創立50周年を迎え、それを記念し、候補の非営利法人から寄付したい団体を社員各人が選ぶ“\$50 to Charity”というプロジェクトをグローバルで開催しました。社員175名に当プロジェクトは選ばれ、植樹に来てくださる方もいました。

富士フィルム株式会社

同社が運営する、東京ミッドタウン内『FUJIFILM SQUARE』にて「鎮守の森のプロジェクト写真展 津波からいのちを守る防災の森づくり」と題した写真展を開催していただきました。期間中は約2万人が訪れ、各地で行った植樹祭の写真を通して活動の意義や市民ボランティアの思いを感じていただきました。また、会場に置かれたノートには、多くの応援メッセージが寄せられました。

支援者にも嬉しいYahoo! 募金

ヤフー株式会社では、社会貢献の一環として、東日本大震災の被災地を支援する団体を特集する「3.11応援企画・くじ付きネット募金」を行いました。

企画期間中に、鎮守の森のプロジェクト専用のYahoo!ネット募金サイト(<https://donation.yahoo.co.jp/detail/4766001/>)に寄付をした方の中から抽選で、支援企業が提供した商品が当るという、支援者にも嬉しい企画です。余ったTポイントでも募金ができますので、皆さま次回は是非ご参加ください。

●商品提供に協力してくれた企業「3.11応援企画」※2018年3月11日頃に開催しました。



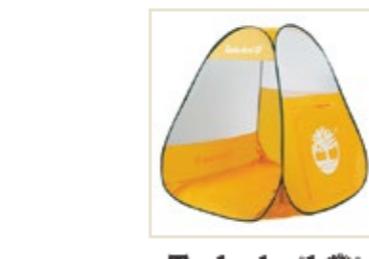
mont-bell

bon

Pelican

FUJIFILM SQUARE

bigram ほごともフーズ



Timberland

kai group

Ecolovista

eLOSA